カリキュラム区分	3カリ	シラバス区分	大学院

科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門分野	M210	1年	後期	看護学	選択	育成支援看護学特論Ⅱ Advanced Study of Developmental Child Nursing II	30	2

担当教員					
豊田　ゆかり	仲渡　江美	藤原　紀世子			

関連するDPキーワード（看護学専攻）	
○	① 看護に関する理論学習を通して経験を意味づける力を身につけている。
	② 人々の健康に関連する諸現象を分析し構造化する力を身につけている。
○	③ 論理的に思考し他者にわかりやすく説明する力を身につけている。
	④ 看護実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけている。
○	⑤ 看護実践の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法と態度を身につけている。
	⑥ 保健医療分野に関して広い見識を身につけている。

関連するDPキーワード（医療技術科学専攻）	
	① 臨床検査学について自ら深く学習する力を身につけている。
	② ヒトの体の仕組みや機能を科学的に説明する力を身につけている。
	③ 健康・病気について論理的に思考し他者に分かりやすく説明する力を身につけている。
	④ 臨床検査実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけている。
	⑤ 臨床検査実践の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法・技術を身につけている。
	⑥ 保健医療分野に関して広い見識を身につけている。

授業目的

子どもの成長・発達及び家族看護に関する研究を理解し、子ども特有の健康問題に対応できる考え方ができる。特に、子ども（個人）・家族・社会の関連性を視野に入れた今日的課題について研究的視点をもって考えることができる。

到達目標（授業目標）

①乳幼児期の発達・成人期の発達（親としての発達）の研究の動向が説明できる。
②子どもの健康障害に対する看護研究の動向が説明できる。
③子どもと家族に必要なケアに関する文献クリテークができる。
④子どもと家族の課題を解決するために活用できる理論が説明できる。

回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）
1回	ガイダンス：これからの講義と学習の方法について　（豊田ゆかり）
2回	乳幼児期の発達（1）：乳幼児研究の現在　（仲渡江美）
3回	乳幼児期の発達（2）：非認知能力（仲渡江美）
4回	乳幼児期の発達（3）：感情の脳科学　（仲渡江美）

5回	成人期の発達：親としての発達 -父親・母親が育つ条件-　（仲渡江美）
6回	健康障害と看護（１）：ハイリスク新生児と家族の看護　（藤原紀世子）
7回	健康障害と看護（2）：慢性期にある小児と家族の看護　（藤原紀世子）
8回	健康障害と看護（3）：障害をもつ小児と家族の看護　（豊田ゆかり）
9回	文献クリテーク（1）：小児看護研究の文献のクリテーク方法について　（豊田ゆかり）
10回	文献クリテーク（2）：対象理解や援助に関する文献クリテーク（1）　（豊田ゆかり）
11回	文献クリテーク（3）：対象理解や援助に関する文献クリテーク（2）　（豊田ゆかり）
12回	文献クリテーク（4）：対象理解や援助に関する文献クリテーク（3）　（豊田ゆかり）
13回	課題解決のための研究手法（1）：小児看護研究における研究目的と研究手法について（1）　（豊田ゆかり）
14回	課題解決のための研究手法（2）：小児看護研究における研究目的と研究手法について（2）　（豊田ゆかり）
15回	まとめ：小児看護研究の動向から、今後必要な小児看護研究の明確化　（豊田ゆかり）
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	

成績評価方法及び基準

プレゼンテーション（30%）　課題レポート（70%）をもとに総合的に評価する。トータル60点以上を合格とする。

教科書	
参考図書等	

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

ガイダンス時及び各担当教員からに授業前の事前準備（課題含む）について説明を行う

関連科目

前科目	M204	理論と看護実践論	M209	育成支援看護学特論	M220	精神看護学特論Ⅰ					
後科目	M212	育成支援看護学演習									

実務家教員

備考	